

# マルセイニュース 5月号

発行日 2018/5/23

株式会社 マルセイ  
浦河町東町うしお1丁目

〒057-0005 TEL0146-22-5123



## 「浦河さくらロード」 今年の桜も見事に咲きました！



髪も結んでもらえてうれしいね、「おさんぽきものレンタル」



町外から多数の参加があった「カメラ女子さくら写真教室」





## メンテナンスは、夏季期間にどうぞ！ この冬も、フル稼働で使用したストーブ 調子はいかがですか？

5月の連休明けに、社長宅のストーブが2台相次いで故障。春が来たタイミングで故障ですが、築40年以上の古い自宅で、この冬もフル稼働していたストーブです。そこで社長、自宅のストーブということもあって圭佑くん（けいすけくん）に修理を依頼しました。



**経験を積んで  
技術を向上しよう！**

「オレの家だから、やってみるといいぞ！」と社長。灯油配送を主に担当している圭佑くん（けいすけくん）に、修理のチャンス到来です。

1台目は、急に燃焼しなくなった温風式ストーブの修理です。悪くなっていた燃焼リングと点火ヒーターを交換して、バッチリと修理完了！ネコを飼っている社長宅です。ストーブの内部は、やっぱりネコの毛が入り込んでいました。ペットを飼っていると、ペットの毛が原因の不具合も多いです。お宅のストーブの調子は大丈夫ですか？次の冬に備えて夏季の間に分解整備をするのをお勧めします。

**修理の仕事は  
直ると  
達成感がありますね**

翌週、なんと！またまた社長宅の別のストーブが故障です。ここかな？とあたりを付けた部品を外してみると、すっかり目詰まりしていました。これでは燃焼しないはず。部品を交換し、燃焼テストで修理を確認した圭佑くん（けいすけくん）。「達成感がありますねー」と仕事の喜びを実感したい顔は眩しいですね。



**関心を寄せていただいて  
うれしいです！**



価格競争に太刀打ちできない小さな会社が生き残っていくためにはどうしたらいいのだろうか？



**どうぞ「利用ください  
社内勉強会」に、うれしい反響**

先月号で「社内勉強会」の再開をご紹介させていただきました。お読みいただいた方から、教材を社内の勉強会で利用させて頂きたいとご相談をいただきましたがもちろんOK！うれしい反響でした。

こんな課題を学ぶ教材にと選んだのが、町田市にある『でんかのヤマグチ』さんの「超」地域密着戦略経営のDVDでした。

経営の勉強の題材としてよく取り上げられる有名店のヤマグチさんは、「遠くの親戚より近くのヤマグチ」と言われるほどお客様からの信頼を得ている会社です。

とにかくサービスが徹底されていて、「何度でも「すぐに」という姿勢と共に、電化製品を介して実はサービスを売っている会社だと言われています。お客様の信頼が厚く、まるごとヤマグチさんの言い値で利用するお客様に支えられている会社なのだそう。すごいですね。

**信頼されている会社が  
徹底して実施するのは  
顧客サービス**

信頼を得るためにはサービスの徹底が大切だとわかっていても、実際にできている中小零細企業はそうはありません。だからこそ、それができている『でんかのヤマグチ』さんはすごいんです。

「あそこまで顧客サービスをやるんですね、スゴイです。」という感想を持った当社の若者たちと一緒に年配組も奮起して、ひとつひとつマルセイのサービスアップに努めます。わたしたちも、お客様に信頼される会社を目指して！



興味のある方はご覧ください。『でんかのヤマグチ』さんの取り組みは、Uチューブなどでも紹介されていて、インターネット上でも勉強することができます。



## 念願の「検針システム」導入 ガス検針の機械化を実現しました！

マルセイのガス検針が「手書き」から「機械化」へと進化しましたよ〜。当社の長年の目標でしたが、ようやく実現することができました。今月は、この業務ソフトの導入にあれやこれやと四苦八苦しながら取り組んでいる姿が見られたマルセイでした。

九州の河村商店さんというガス販売店が開発した、「小規模LPガス販売店用の業務ソフト」を購入しました。  
メーカー製の高価なシステムの導入は小さなLPガス販売店にはむずかしく、当社も、なかなか手を出せずにいました。

### 同業者が開発した 廉価な業務ソフト導入で 仕事の効率アップ！

そんな同じ悩みを抱える全国の仲間にも手頃なシステムを届けたいと、河村さんが価格を抑えた管理システムを開発。インターネット上で紹介しているのが今回購入した業務ソフトです。スマホと携帯プリンターを使って簡単にできる検針システムで、販売店の目線で作られているのがありがたいですね。

以前から検討していたこのソフトをついに購入！ちやーんと動かすことができるかな？とドキドキしながら、早速、今月のガス検針から利用開始です。  
さてさて、実際のガス検針で使いこなすのはアイドルさんで、その後の事務処理はばわふるさんに。システムが順調に稼働して軌道に乗る手助けするのは社長です。「あ〜つ、頭使った！」「疲れたく〜」ため息をつきながら新しい業務ソフトの導入がスタートです。みんな頑張ってます！



## 使ってみたら、あまりに便利なので マックスが、『ガス乾燥機』を買っちゃった〜

自分でも驚きです。リースではなく、とうとう自家用にガス乾燥機を買ってしまったマックス。決め手は家事の時間短縮です！毎日のことだからこそ、家事が楽になるのは本当にうれしいですね〜。これから、長く大切に使います♪

### 便利なので 買ったことにしました

本当に、『ガス乾燥機』は使うと手放せなくなりました。家事の時間短縮は大助かりです。設置が可能なお宅なら、ぜひおすすめしたい製品です。

自分流の使用スタイルが身に着いてきました。私はタイマー使って、おおよそ8割ほど乾くまで乾燥機を利用して使っています。それから取り出して干すと乾燥シワも付かず、ふんわりと乾燥するんです。完全に乾かしてしまわないので乾燥機を使っていなかった時のように干す作業がありませんが、その時間ももつても短縮されました。自分でも驚いたのは、洗濯のストレスから解放された気分を感じていることです。パツと終わるので、家事労働の中の「洗濯」がうーんと気楽になりました。

### 家事の時間短縮が とにかく うれしいです！

毎日のことで、これからもずっと続くことだから、家事が楽になるのは本当にうれしいですね。『ガス乾燥機』があるので、今年からは、湿度の高い季節を迎えてもへっちゃらかな〜。

「ネ」の毛の除去も  
できてうれしい

使っていて驚くのは、衣類のホコリです。ドラムを回す分だけ繊維からのホコリも出るのかな？それ



早速、「うちには設置できますか？」とうれしいお問い合わせもいただいております。『ガス乾燥機』に関心のあるマルセイのお客様は、どうぞお気軽にご相談ください。



用意されていたレンタルきものの中から、自分で着てみたい好きなきものを選べたのも魅力のひとつでしたね。「浦河きもの女子会」のみなさん、ありがとうございます。

# “きもの”を着て楽しんだ「浦河桜まつり」

## 『おさんぽきものレンタル』 5月6日(日)10:00~15:00

主催：浦河きもの女子会

今年の桜まつりは、『おさんぽきものレンタル』のコーナーに注目していました。

あいにくの雨にも関わらず、小さな子どもから大人まで十数人がきものを楽しんだそうです。実は私もその一人。洋服の上に着せてもらえるのでとっても簡単にきものを楽しめました。こんなに手軽にきもの姿を楽しませていただけるなんて、ステキな企画だと思います。

町の人の協力をいただいで集めたきものを利用して実現できた『おさんぽレンタル』。きものを着て楽しみたい！若者にもその楽しさや素晴らしさを伝えたい！と思う仲間が集まって発足した『浦河きもの女子会』の主催でした。タンスに眠ったままだったきものも、存分に活かされましたね。ありがとうございました！

マックス



タンスに眠ったままの着物ありませんか？ その着物たちに袖を通すチャンスをご覧ください



町の中を着物姿で歩いて楽しんでる様子って、何だかいいですね。絵になっちゃうな！

ちょっと待ってー！捨てる前に！ほどく前に！その着物たちに袖を通すチャンスをご覧ください！！ぜひ、レンタル着物として活躍させていただきたいです♡

寄付された着物を着せていただきました！



新書のコーナーで今店長さんからお話を聞いている社長



# “留萌ブックセンター by 三省堂書店”へ行ってみると「まちの本屋」を守り続けている店長さんに会いました！

先日、所用で留萌市に行った際に留萌ブックセンターさんに寄ってきました。2010年の末、留萌市は地元の書店が閉店し本屋のないマチとなりました。このとき主婦を中心に地域の方たちが「本屋のあるマチ」へ向けて奔走。その熱意にうたれた三省堂書店さんが出店を決断しました。人口30万人が一つの目安というわれる出店条件で、3万人に満たない留萌市への進出は極めて異例とたいへん話題になりました。

お忙しい中、店長の今拓巳さんにお話を伺うことができました。勉強になることがたくさんあったのですが、特に参考になったことを箇条書きにします。

「7年で4千人人口が減りましたが、黒字を維持しています」「市立病院のお医者さんの文献（洋書）分だけ2百万ほど売上があります」「ここで買わないとまた本屋がなくなるぞーという危機感がみなさんにあります」「図書館と常時打ち合わせをしています、イベントを仕掛けています」「移動販売もしています。これが、けっこう売れるんです」等々。

お話を伺って分かったのですが、これは三省堂書店さんにとってもメリットがある仕組みです。もし書店がなければ、アマゾンを始めとするネットで本を買うはずの田舎の人たちが、マチの書店で購入してくれるのですから。

「これだけの新書が並んでいると楽しいですね」と言うと、「これはわたしが拡張してきたんです。」と店長さんは言いました。本好きの人がみんな支えている本屋、すばらしいなと思いました。

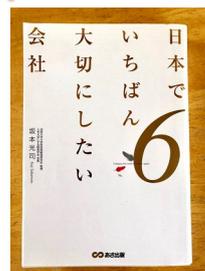
社長



# 『日本でいちばん大切にしたい会社 6』

坂本 光司 著 (1947~) 株式会社あさ出版 発行

最近読んだ  
本の中より…



木野口さんは、1939年、北海道の浦河町で生まれました。小さいときからよく働く真面目な子どもでしたが、家庭の経済的な事情で進学できずに、中学を卒業後、地元の浦河町役場に給仕として就職します。給仕とは役場で働く人たちにお茶を出したり、灰皿を洗ったり、机を拭く仕事です。仕事をしながら定時制高校に通い、その後、役場で事務の仕事覚え、福祉や衛生など行政のさまざまな仕事を経験しました(本文より)

## 人生を変える人との 出合いに恵まれて

誰にでも一人や二人は、この人との出合いが自分の人生を変えたと思える人がいるはず。わたしにとつては、この本で紹介されている株式会社アイワードの木野口社長(現会長)がその人です。

20代後半の3年弱のあいだ、アイワードがまだ共同印刷だったころに、わたしは木野口社長の下で働きました。その木野口社長と会社が坂本光司さんの新刊で紹介されていると知り、すぐに買い求めました。それが本書『日本でいちばん大切にしたい会社6』です。アイワードのことは、「愚直一途に印刷に向き合ってきたからこそ生まれる驚きの技術」というタイトルで紹介されています。ぜひ皆さん、手にとつて読んでみてください。

も再建会社の社員でした。240人ほどの従業員の約一割が障がい者であることなどが紹介されています。



現社長の奥山敏康さんが入社したときのエピソードも記されています。大学卒業後、仕事が決まらずにぶらぶらしていた奥山さんは中小企業家同友会を訪ねます。そこで話を聞いてくれた同友会専務(故人)に、「あなたの性根が悪いから、どこも雇ってくれないのだ」と叱責されたというのです。その専務が電話をかけてくれて、一時間ほど待っていると木野口社長が現れました。奥山さんはそのとき言われた言葉が忘れられません。「あなたは大学まで出ている。それは誰のおかげか考えたことがありますか?両親や社会のおかげでしょう。今度はあなたがこれまで学んだことを社会に返していくことになる。それが働くということでしょう。」

わたしがいたころ、奥山現社長は係長で労働組合の委員長でした。優秀で人望のある人だなあと、遠くから眺めていたのですがこんな入社いきさつがあったとはまったく意外です。何しろこのいきさつは、大卒ということを除けばわたしが入社したときとソックリなのです。仕事にありつきたくて木野口社長を訪ねた日のことを、今でもありありと思いつくことが出来ます。26才の初夏でした。

## この本で紹介された 印刷会社こそが 「わたしの大学」でした

「ろくな生活しとらんな。明日から来い。鍛えてやる。そうやって次の日から工場で見習いとして働くことになったのです。まさに「拾って」もらったのです。」

まったく本の紹介になっていないのはわかっています。ですがどうしても書きたかったのです。大学に行かなかった私にとつて当時の共同印刷(現アイワード)は、まさに「わたしの大学」でした。

社長

## 「仕事を通じて社会の役に立つこと。」と教わりましたが、道遠しです



30年以上前の宝物とも、そろそろお別れするときかな?でも、忘れません。

少しずつ進めている断捨離。長いこと着ていなかった衣類も処分しています。すると、印刷会社で働いていた頃の夫の作業着が出てきました。インクで汚れた作業着たちです。始発の地下鉄で出勤し、最終にも間に合わない時間まで連日残業して働いていました。「紙つて重いんだよ」とその言葉を証明するかのよう、重い紙を持つ仕事で手の爪は目を追うことにもまっ平になっていきました。

「飯を食うのも遅いんだな」と言われながらの新米の見習い工は、おまけに不器用でした。後に友人となった年下のリーダーから厳しくも優しく指導を受けた日々。若く、お金もなかったあの頃の夏の贅沢は、50円で買った冷たいパイナップルキャンデーだったな。(笑)

社長が本当に怒ると、会社の窓ガラスが音を立てて振動するほどだったと話してましたね。木野口社長とあの会社に助けていただき、社会で生きるということを学ばせていただいたあの頃の記憶が蘇ります。

木野口社長に教えていただいたように、ご恩は自分の仕事を通じて社会にお返ししていきますように頑張りたいです。

マックス



ばわふるの花壇

春の花が咲き揃った花壇では、ルピナスの花も育ってきています。



## ゲスト登場! ガスグリルでおいしくクッキング 独身男子にも超簡単な 焼きおでん

(株)パロマ北海道支店の苫小牧営業所から谷藤克哉さんをゲストにお迎えして、ガスグリルでクッキングをしていただきました。もちろん、パロマの調理器具「ラ・クック」を使っての調理でしたね。正直、「焼きおでん」と聞いて期待していなかったのですが食べてびっくり!バターがしみ込んだおでんの具が美味しかったー!

こんにちは、谷藤克哉です。今日は、「ラ・クック」を使って簡単にできる料理をご紹介します。「ラ・クック」で料理するようになってから料理が楽しいこの頃です!



### ●材料 (2人前)

- 味付きおでんの具(市販されているものでOK)  
大根、こんにゃく、ちくわ  
練りもの、しらたき、卵 など
- ピザ用チーズ 適量
- 青のり 適量
- ブラックペッパー 適量



バターがいいんです!  
しっかり味がしみ込んだ  
おでんの具材に、バター  
の風味が良く合います!  
バター好きならぜひ、  
作ってみてくださいネ^^

### ●作り方 (参照 ガスで美味しいレシピ)

- 1、ラ・クックにバターをのせて加熱する。



- 2、ざるで水気を切ったおでんの具をラ・クックにのせて、ピザ用チーズをのせて焼きます。

【火加減】上火→強 下火→強 【加熱時間】予熱なしで 9分

- 3、焼きあがったらブラックペッパーをかけ、青のりを散らして完成!  
(こんなに簡単なのに、思いがけなく美味しかった~!!)



### 谷藤さんが作った「焼きおでん」

ほんと、美味しかったです!試食タイムがあまりにうれしくて、久しぶりにお皿に盛りつけた写真を撮るのも忘れてしまいました。ハハハ~♪

午前中の仕事を終えて、会社に戻ってきた各面々。「こんにちは」「お世話になります」とあいさつを交わした後はランチのお手伝いです。「マックスさん、今日はちゃんとご飯を炊けたの?」とばわふるさんのチェックが入ります。「どうかな?やっぱり少し水が多かったかも」と相変わらずいい加減なマックス。「大丈夫です!」と、若者たちは大きなご飯茶碗に年配組は普通のご飯茶碗にご飯を盛り付けていると…。そこへ、ガスグリルから出した熱々の焼きおでんが登場!

思わず全員で見入ってしまいました。(笑) 写真撮りのため「待て!」の状態が続く中で、早く食べたいよ~、よだれが出て来たよ~と楽しい大騒ぎ。「いただきまーす!」とようやく食べ始めた焼きおでんは、美味しかった~!「このバターが、いいねえ~、具材にしみ込んでいい味出してるよ」と思いがけなくも絶賛された美味しさでした^^

お腹もいっぱいになって、大満足の試食会は終了。「ありがとうございました」と感謝を伝えた後に、谷藤さんから「ラ・クック」のスペシャル版?「ラ・クックアラカルト」の購入のお願いがありました。

そりゃ~、もちろんOK! ですよね社長~♪ そこで、2カ月後には改めて谷藤さんに登場していただく「ガスグリルでクッキング」も決定-! お楽しみに~♥



おおーっつ!

「おおーっ!」と見入っている様子、伝わりますか?



心の中はみんな、「早く食べた〜! 早く!」って思いながら笑っているんですよ。ハハハ



僕はトーストも「ラ・クック」で焼いてますよー

別のおかずは、鶏カツに以前紹介したタルタルソースをかけてボリュームいっぱい。若者たちもおいしい笑顔です。

社長のちょっと長いコラム

「本の紹介コーナーの続き」

今月は、「本の紹介」コーナーの続きのよ  
うなコラムです。未読の方は先にそちらを  
読んでいただくと、うれしいです。わた  
しが若いころお世話になった社長さんと  
その会社のことを書きました。札幌の印  
刷会社アイワードと木野口功社長。現在  
は会長のことです。わたしは二十代後半  
のとき、田上印刷という木野口社長が再  
建を頼まれた会社で印刷工として働いて  
いました。印刷会社  
の繁忙期というの  
は、それは忙しいもの  
でした。あのころ一緒  
に油やインキにまみ  
れて働いた工員の人  
たちも、とくに定  
年を迎えているはず  
です。時々なつかし  
く思い出します。



木野口さんは、1939年、北海道の浦  
河町で生まれました。小さいときからよ  
く働く真面目な子どもでしたが、家庭の  
経済的な事情で進学できずに、中学を卒  
業後、地元の浦河町役場に給仕として就  
職します。給仕とは役場で働く人たちに  
お茶を出したり、灰皿を洗ったり、机を  
拭く仕事です。仕事をしながら定時制高  
校に通い、その後、役場で事務の仕事  
を覚え、福祉や衛生など行政のさまざま  
な仕事を経験しました。（日本でいちばん  
大切にしたい会社6）より）

一定時制高校に通う子を「給仕」として  
浦河町役場が採用したのは、木野口さん  
が最初だと聞いています。中学卒業後、

木野口さんは地元の印刷会社に就職す  
ることが決まっていました。そこで働きな  
がら定時制高校に通うはずだったので  
す。このことを知った当時の中学校の校  
長（故原清重さん）と浦河町長（故浜口  
光輝さん）は、この少年のことを憂慮しま  
した。前途有望な少年が、学業をきちん  
と収められないことになるのではないか。  
何故なら印刷会社は残業が多いから！  
そこで校長と町長のふたりが相談して、  
役場で給仕として雇うということになっ  
たのでした。このあと何人かの中学生が、  
木野口さんに続いて役場で給仕として働  
きながら高校に通ったはずですが。（そう聞  
いたことがあるのですが、確認はしていま  
せん）

この校長先生と首長の逸話を思い出  
すたびに、大人が大人としての役割を果た  
していた時代があったことを思うのです。  
そしてこの木野口少年が経営者になり、  
わたしも現アイワード社長の奥山さんも  
「拾われて」働かせてもらい、今がありま  
す。もちろん今でも、子供たちの将来の  
ために真剣に行動している教育者は行政  
マンはいることでしょう。ただ、個々の取  
組みばかりでなく、世の中として子ども  
や経済弱者への支援を是とする考えが  
もつとあつていいです。

これはよく知られた調査ですが、「自力  
で生活できない人を国が助ける必要はな  
い」という問いに、イエスと答える人は多く  
の先進国で10%程度です。その中で日本  
は断トツの40%近い人がイエスと答えてい  
ます。2位のアメリカを大きく上回る数  
字です。社会に包摂する力がなければ、  
どんどんと衰退していくとわたしは思  
います。若いころ「拾われた」経験がある者  
の実感です。

さのばわふる日記



新しいことを導入する準備をすることにより、日々  
の業務が止まり、私の机の引出しは満パイ。溜まった仕  
事を処理するため、さつちゃんにヘルプ。二人で黙々と  
事務仕事をしているところに社長が仕事から戻り  
「コーヒー飲むん？」「はい！」「二人で返事。」  
コーヒーを入れに行く社長を見て「私たちつてエライ  
よね。」と私。「ホントだね、社長様にコーヒーをいれさ  
せるなんていいの？」とさつちゃん。その会話を聞いた社  
長は「この様子をちゃんと伝えてくれ」と日常茶飯の現  
状をアピール。



コーヒーを淹れて其々の  
のカップに注ぎ、私たちの  
のデスクに置き、やつと  
自分のイスに座り至福  
のひとつときが社長様に  
訪れました。

社長！いつも、ありがとうございます。  
そして、寛容な社長のお話をもう一つ…

「ぶつは、わつはは」と笑う社長。  
これが寛容だったと言うだけで、社長のお  
話ではなく、私のお話なんですが…



ある日の朝、目が覚めるとなんと！8時2分。当然、  
会社に向かつて車を走らせている時間です。もう慌て  
ても間に合うはずがないので、社長に電話。その数秒の  
中で今日の仕事の流れはどうだったかなと考える私。  
「どうした？」と電話の向こうから社長の声。「いま、目  
が覚めた…」と私。そして、社長の前述の笑い。いい年し  
たおばちゃん寝坊ですよ。普通ならありえない。  
でも、私にはありえる事態なんです。今までは遅刻す  
るといっては回避できていたもの



朝ですかー  
おほーよ  
朝ですかー  
近、私の目覚ましは鳴らない  
事があるのですよ。スヌー  
ズに設定しているのに不思議  
だわ。



発行 株式会社マルセイ

灯油・プロパンガス販売・機器修理  
廃棄物収集運搬・暮らしのサポート事業

夏季期間（4月～9月）定休日：日曜・祝祭日 営業時間 8:15～5:15 土曜3:00

編集 おはなし家（マックス）

発行部数 3500部

【Emailアドレス】 marusei.gs@gmail.com

【マルセイブログ】 「マルセイブログ」で検索してください

〒057-0005 浦河町東町うしお1丁目9-3

TEL 0146-22-5123

